

科目名	日本事情 I	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	聴解能力を養成しながら、自国や他国との比較の視点から日本の社会・生活に関する理解を深める。
	到達目標	1. 自国と他国との比較の視点から、日本の社会や生活について理解を深める。 2. 聴解能力を高める。 3. 語彙力・文法力を高める。
授業計画	(1) 授業の説明 社会・生活1 (2) 社会・生活1 (3) タスク1 (4) 社会・生活2 (5) 社会・生活2 (6) タスク2 (7) 社会・生活3 (8) 社会・生活3 (9) タスク3 (10) 社会・生活4 (11) 社会・生活4 (12) タスク4 (13) 社会・生活5 (14) 社会・生活5 (15) タスク5	
自学自習	事前学習	・日々のニュースや出来事に関心を持って接しておくこと。
	事後学習	・2回おきに、小テストと発表(または小レポート)を課す。
使用教材・参考文献	【教】 使用しない。プリントを配布する。 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 下記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。 <方法> 読書レポート(20点)、小テスト(15点)、発表・小レポート(15点)、期末試験(50点)	
備考	1. 日本人学生は受講できない。 2. 読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	日本事情Ⅱ	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	聴解能力を養成しながら、自国や他国との比較の視点から日本の社会・生活に関する理解を深める。
	到達目標	1. 自国と他国との比較の視点から、日本の社会や生活について理解を深める。 2. 聴解能力を高める。 3. 語彙力・文法力を高める。
授業計画	(1) 授業の説明 社会・生活6 (2) 社会・生活6 (3) タスク1 (4) 社会・生活7 (5) 社会・生活7 (6) タスク2 (7) 社会・生活8 (8) 社会・生活8 (9) タスク3 (10) 社会・生活9 (11) 社会・生活9 (12) タスク4 (13) 社会・生活10 (14) 社会・生活10 (15) タスク5	
自学自習	事前学習	・日々のニュースや出来事に関心を持って接しておくこと。
	事後学習	・2回おきに、小テストと発表(または小レポート)を課す。
使用教材・参考文献	【教】 ・2回おきに、小テストと発表(または小レポート)を課す。 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 下記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。 <方法> 読書レポート(20点)、小テスト(15点)、発表・小レポート(15点)、期末試験(50点)	
備考	1. 日本人学生は受講できない。 2. 読書レポートの内容を成績評価の対象とする。	

科目名	日本事情Ⅲ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	(1) 日本の文化・社会に関する情報を理解する(グラフ) (2) 日本の文化・社会に関する情報を理解する(読み物) (3) 他国と比較しながら自分や自国について発表する。
	到達目標	(1) グラフの情報を理解し、説明できる。 (2) トピックに関連した読み物を読んで、内容が理解できる。 (3) 新出語彙および文型の意味と用法がわかる。 (4) トピックに関連したディスカッションに参加できる。 (5) 自分や自国について他国と比較しながら説明できる。
授業計画	(1) 食文化 (2) 〃 (3) 〃 (4) 〃 (5) 仕事 (6) 〃 (7) 〃 (8) 〃 (9) 生活習慣と宗教 (10) 〃 (11) 〃 (12) 〃 (13) 〃 (14) ジェンダー (15) 〃	
自学自習	事前学習	・新出語彙・文型を辞書等で調べておくこと。 ・作文課題を毎回提出すること。
	事後学習	・添削された作文を見直し、訂正して再提出すること。
使用教材・参考文献	【教】 安藤節子他『改訂版トピックによる日本語総合演習上級』スリーエーネットワーク 2010年 ※教科書は共同購入予定 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 上記の到達目標を達成した者を合格とします。 <方法> 授業での積極性(10点)、作文課題(40点)、期末試験(50点)で評価する。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とする。	
備考	・日本人学生は受講できない。 ・教員が指示する『読書』課題の遂行を成績評価に加味する。	

科目名	日本事情IV	
担当者	有松 しづよ / ARIMATSU, Shizuyo	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	人間・文文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている。	
科目概要	授業内容	祭やゆるきやら等に見る事象を通して、日本の文化や経済事情を理解していく。
	到達目標	日本社会に見る事象を文化や経済の側面からみることができる。 学習したことを論理的にまとめ、発表する能力(口頭発表およびレポート)を高める。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 祭りと地域経済の関係1 (3) 祭りと地域経済の関係2 (4) 祭りと地域経済の関係3 (5) ゆるきやら事情と地域経済の関係1 (6) ゆるきやら事情と地域経済の関係2 (7) 婚礼文化に見る経済活動1 (8) 日本文化体験を通してみる日本事情 (9) 伝統行事と地域経済の関係1 (10) 伝統行事と地域経済の関係2 (11) 伝統行事と地域経済の関係3 (12) アイドルと地域経済1 (13) アイドルと地域経済2 (14) アイドルと地域経済3 (15) 授業の総まとめ	
自学自習	事前学習	事前配布史料を読んでおく。 意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておく。
	事後学習	既受講内容を整理する。
使用教材・参考文献	【教】 オリジナルテキストを使用する。 【参】 随時紹介する。	
成績評価方法と基準	<基準> 日本社会に見る事象を文化や経済の側面からみることができる。 日本事情について、論理的な文章を作成し、発表する能力(口頭発表およびレポート)を習得できている。 <方法> 授業参加度55点 定期試験45点	
備考	・日本人学生は受講できない。 ・授業参加度評価中には読書課題の提出も含む。	

科目名	日本語Ⅰ	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	多様な文化に対する理解と共感を持ち、最低1つの外国語を運用して、グローバルな社会に参加する姿勢を身につけている	
科目概要	授業内容	日本語能力試験N2レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・話す力を養成するための練習を行う。
	到達目標	1. 日本語での発表を正確に聞けるようになる。 2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。 3. ひとりでまとめた内容が論理的に発表できるようになる。 4. 発表のテクニックを学び、話の内容を予測する能力を養う。
授業計画	(1) 授業説明・日本語実力試験 (2) ウォーミングアップ(メモを取る練習・構成の確認) (3) ウォーミングアップ(構成の確認) (4) 第1課 (5) 第1課 (6) 第1課 (7) 第2課 (8) 第2課 (9) 第2課 (10) 第3課 (11) 第3課 (12) 第3課 (13) 第4課 (14) 第4課 (15) 第4課	
自学自習	事前学習	・「使用教材」を前もって読んで必要な箇所はCDで聞いておくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・各課の後半部分で口頭発表を課す。
使用教材・参考文献	【教】	犬飼康弘『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』2007年 スリーエーネットワーク
	【参】	なし
成績評価方法と基準	<基準>	まとめた内容が論理的に説明発表できるようになり、下記の<方法>の合計点が60点以上に達した者を合格とする。5回以上欠席した者は不合格とする。
	<方法>	クラスでの発表(40点)、小テスト(10点)、期末試験(50点)
備考	1. 日本人学生は受講できない。 2. 教科書を購入しなければ受講できない。	

科目名	日本語Ⅱ	
担当者	田中 利砂子 / TANAKA, Risako	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 1年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	多様な文化に対する理解と共感を持ち、最低1つの外国語を運用して、グローバルな社会に参加する姿勢を身につけている	
科目概要	授業内容	日本語能力試験N2レベル以上の教材を用い、大学での勉学に必要な聞く力・話す力を養成するための練習を行う。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語での発表を正確に聞けるようになる。</li> <li>2. 語彙力・文法力を高め、必要なものは使用できるようになる。</li> <li>3. ひとりでまとめた内容が論理的に発表できるようになる。</li> <li>4. 発表のテクニックを学び、話の内容を予測する能力を養う。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業の説明 前期の学習内容の復習</li> <li>(2) 前期の学習内容の復習</li> <li>(3) 前期の学習内容の復習</li> <li>(4) 第5課</li> <li>(5) 第5課</li> <li>(6) 第5課</li> <li>(7) 第5課</li> <li>(8) 第6課</li> <li>(9) 第6課</li> <li>(10) 第6課</li> <li>(11) 第6課</li> <li>(12) 課題Ⅰ</li> <li>(13) 課題Ⅰ</li> <li>(14) 課題Ⅰ</li> <li>(15) 課題Ⅰ</li> </ol>	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「使用教材」の該当課を事前に読み聴きしておくこと。</li> <li>・意味のわからない単語は辞書等で事前に調べておくこと。</li> </ul>
	事後学習	・各課の後半部分で口頭発表を課す。
使用教材・参考文献	<p>【教】 犬飼康弘『アカデミック・スキルを身につける 聴解・発表ワークブック』2007年 スリーエーネットワーク</p> <p>【参】</p>	
成績評価方法と基準	<p>&lt;基準&gt; 下記の評価方法により、合計が60点以上の者を合格とする。ただし、5回以上欠席した者は不合格とする。</p> <p>&lt;方法&gt; クラスでの発表(40点)、小テスト(10点)、期末試験(50点)</p>	
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本人学生は受講できない。</li> <li>2. 教科書を購入しなければ受講できない。</li> </ol>	

科目名	日本語Ⅲ	
担当者	十島 真理 / TOSHIMA, Mari	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 前期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	文化・社会・人間・環境・情報についての基礎的知識および科学的思考方法を身につけている	
科目概要	授業内容	大学生活のなかで必要な日本語能力のうち、特に必要なレポートの書き方を練習する。
	到達目標	1. レポートが、できるだけ正確な日本語で論理的に書けるようになる。 2. レポートなどによく使用される文型や語彙が使用できるようになる。
授業計画	(1) 授業説明、実力試験(作文) (2) レポートに使われる文体 (3) 同上 (4) 文の基本 (5) 同上 (6) 同上 (7) 句読点の打ち方 (8) 各種記号の使い方、段落 (9) 引用のしかた (10) 同上 (11) 仕組みの説明をする (12) 同上 (13) 歴史的経過の説明をする (14) 同上 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・学んだことを理解し、実践するよう努力する。
使用教材・参考文献	【教】	二通信子ほか『改訂版 留学生のための論理的文章の書き方』 2003年スリーエーネットワーク
	【参】	
成績評価方法と基準	<基準>	レポートが、できるだけ正確な日本語で論理的に書け、よく使用される文型や語彙が使用できることが達成されたものは合格とする。 上記評価方法により合計が60以上に達した者を合格とする。 4回以上欠席した者は不合格とする。
	<方法>	テスト60% 授業参加態度40%、 (小テスト20点、期末試験40点 宿題30点、受講態度10点)
備考	1. 日本人学生は受講できない。 2. 教科書を購入しなければ受講できない。なお、教科書は共同購入する。	

科目名	日本語Ⅳ	
担当者	入佐 信宏 / IRISA, Nobuhiro	
科目情報	外国人留学生特別科目 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 2年次	
授業マトリクス上の位置づけ(科目が設置された学科、コースでの位置づけ)	教育課程の獲得目標	
	多様な文化に対する理解と共感を持ち、最低1つの外国語を運用して、グローバルな社会に参加する姿勢を身につけている	
科目概要	授業内容	(1)社会的に賛否両論のあるテーマと関連した文章の読解 (2)自分自身の経験および意見の発表 (3)自分自身の立場を決めて討論
	到達目標	(1)テーマと関連した文章を読んで、内容が理解できる。 (2)新出語彙および文型の意味と使用方法がわかる。 (3)自分自身の経験および意見を適切に発表できる。 (4)立場を決めて討論に参加できる。
授業計画	(1) 早期英語教育 (読解・文型・語彙) (2) " (発表) (3) " (討論) (4) 死刑制度 (読解・文型・語彙) (5) " (発表) (6) " (討論) (7) 日本にカジノは必要か (読解・文型・語彙) (8) " (発表) (9) " (討論) (10) 体罰 (読解・文型・語彙) (11) " (発表) (12) " (討論) (13) ネット依存症 (読解・文型・語彙) (14) " (発表) (15) " (討論)	
自学自習	事前学習	・新出語彙・文型を辞書等で調べておくこと。 ・作文課題を毎回提出すること。
	事後学習	・添削された作文を見直し、訂正して再提出すること。
使用教材・参考文献	【教】 教科書は使用しない。授業中に配布するプリントを使用する。 【参】	
成績評価方法と基準	<基準> 上記の到達目標を達成した者を合格とします。 <方法> 授業での積極性(10点)、作文課題(40点)、期末試験(50点)で評価する。 上記評価方法により、合計が60点以上に到達した者を合格とする。	
備考	・日本人学生は受講できない。 ・授業で扱うテーマは受講生のニーズに合わせて変更することもある。	